

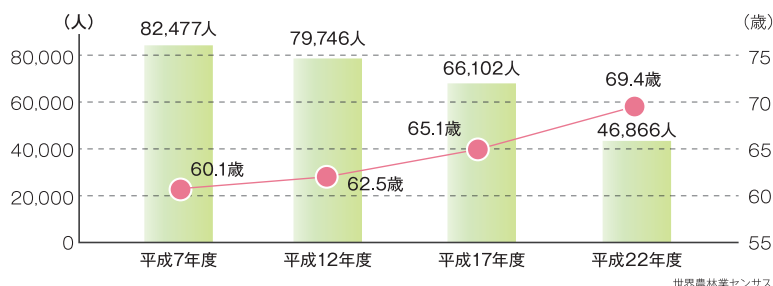


3年間で農業の新たな担い手を1000人育成

岐阜県内の農業就業人口は、15年前と比べて43%減少し、平均年齢は60.1歳から69.4歳へと上昇しています。農業就業人口の減少と高齢化が進むなか、農業の維持と発展のため、多様な担い手を育成しようと、県では、平成26年度から3年間で1,000人の新規就農者を育成する「担い手育成プロジェクト1000」をスタートしました。

問/県農業経営課 ☎058(272)8421

岐阜県の農業就業人口および平均年齢の推移



岐阜県就農支援センター 海津市

新規就農者の育成研修施設として、平成26年4月に開設した「岐阜県就農支援センター」では、毎年4名の研修者を募集し、トマト農家として県内で農業経営を行うための実践的な研修を約1年間行います。現在、第1期生4名が、県が開発した「トマト独立ポット耕栽培システム」を活用した「冬春トマト」の栽培研修を行いながら、農業簿記の習得など農業経営に必要な知識・技能等を学んでいます。

問/岐阜県就農支援センター ☎0584(53)0175

◎研修の受講に関する相談は、随時受け付けています。



1 研修ハウスには、10a(アール)あたり2,400株のポットがある ※1a=100平方メートル 2 1株ごとのポットで栽培されており、病気のまん延を防ぐなど、さまざまな利点がある 3 栽培研修中の第1期研修者 市川征樹さん



第1期研修者
市川征樹さん

もともと農業に興味があり、今回家族の承諾を得て応募しました。40歳という年齢から不安もありましたが、将来性がある仕事だと感じました。研修終了後は、海津市で就農し、地域に貢献できる農家になりたいと考えています。



行政・JA・生産者が一丸となって就農支援

県では、就農支援センターでの研修終了後、速やかに就農できるよう、市町村、JAグループ、生産者と連携し、農地の確保、施設の整備等の支援を行っています。

また、就農支援センターの研修をモデルとして、県内各地で新規就農者育成研修施設の開設機運が高まっており、各地に研修施設が整備されるよう支援していきます。

平成27年度に開設する就農研修施設

飛騨地域トマト研修所 (仮称) 飛騨市

運営主体: JAひだ 研修者: 年3名

問/JAひだ本店営農指導課 ☎0577(36)3880

就農までのみちすじ

① 情報・基礎知識を収集しましょう

▶▶ (一社)岐阜県農畜産公社の新規就農相談窓口で、何でも相談してみましょう。

② 農業体験・現地調査をしましょう

▶▶ 週末、休暇を利用して現場訪問し、農作業を体験してみましょう。

③ めざす農業経営のビジョンを作ってみましょう

▶▶ 家族で話し合い、めざす経営の目標、構想を作ってみましょう。

④ 就農の準備をしましょう

▶▶ 農業の知識・技術の習得、資金の準備、農地の確保、住宅の確保、機械及び施設の取得など、就農のための本格的な準備を進めましょう。

問/(一社)岐阜県農畜産公社(岐阜県青年農業者等育成センター)

☎058(276)4601/FAX 058(276)1268

☒agri-stock@gifu-notiku.com

ぎふアグリチャレンジフェア2015 //

県内で新たに就農を考えている人を対象とした相談会・セミナーを開催します。(要申込・無料)

とき・ところ

2月1日(日) 岐阜県立国際園芸アカデミー(可児市)
3月8日(日) ふれあい福寿会館(岐阜市)

申込方法

申込書を郵送、FAX、またはメールで申込先へ。
申込書は、ウェブサイトから入手可。

申込期限 1月23日(金)

申込先・問 県農業経営課

☎058(272)8421/FAX 058(278)2686

☒c11419@pref.gifu.lg.jp

